

暑い夏には熱く語る!

～野沢組の秘密～

期日: 2016年7月30～31日 場所: 野沢温泉村

信州自治体学会では、ここ数年毎年フォーラムを開催しています。内容は会員の要望やその時の関心事などを反映していますが、今年は7月30日から31日にかけて、野沢温泉村で開催しました。参加者は約20名、東京や大阪からも参加があり、地元のご協力をいただき有意義なフォーラムとなりました。関係された皆様に御礼申し上げます。

この場所が選ばれたのは、以前開催したフォーラムの交流会上で野沢組という強力な地縁組織の存在が紹介され、地域コミュニティを研究する学生の対象となっている割には地元では知られていないことに対する興味や、北陸新幹線（長野経由）開通など交通の便もよくなり集まりやすいこと、さらに重要なのは温泉の存在でした。しかしながら、その時には会員の中に村の関係者はおらず、先送りかと思われた矢先に、偶然野沢温泉村の職員である金井さんと知り合うことができ、また昨年の中井照先生には「二重の住民登録」についてお話しいただきましたが、野沢温泉村は行政と地縁組織の「二重の自治組織」と二重が続くという関連性（本当の関連性ではないでしょうが）が要因となっています。

野沢温泉村は、広い信州の中では長野市や小布施町の北信地域にあり、新潟県境も近い場所です。人口は約3600人、名前のとおり温泉があり、野沢菜の発祥の地でもあります。観光では温泉と並んでスキーが盛んで、オリンピックメダリストも輩出し、1日に雪が1メートルも積もることがある日本屈指の豪雪地帯です。

今回のテーマは行政と地縁組織の関係を探ることで、事前の情報から野沢組の影響力がかなりのものであることは分かりました。例えば、冬には厄払いのために道祖神祭りが開催されています（祭りともいわれかなり激しいもの）が、これを取り仕切るのは野沢組であり、地域を離れている若者もお祭りの時には必ず帰ることになっているとか、村長よりも野沢組の代表者である惣代の方が偉いのでは（現村長は元副惣代）など、誇張されているところ

はあるかもしれませんが、通常行政区域のほぼ全部を一つの組織が管轄していることはないと思います。金井さんのご尽力があり惣代と村長さんという両方の代表者からお話を伺う機会をいただきました。このような場面で両者が同席することは立場的にまずないということの後から知り、恐縮しました。

富井村長、上野惣代の順にお話しいただき、会場からの質疑、特に運営についての質疑がすごく、まさに地域コミュニティと行政の協働についての関心の高さ、また野沢組の強さへの驚きでもあったと思います。

富井村長さんからは村の概要とこれからの観光戦略について、スキー客の激減に対する外部からの招致についてお伺いしました。ちなみに1年間で外国人登録数は30人以上増えており、従来とは違った滞在の仕方ができてきているように感じました。

上野惣代さんからは、野沢組の役割として温泉（源泉）とスキー場の所有と管理（観光の基盤を抑えることとなります）をしていること、村への負担、惣代選挙制度などをお話しいただきました。

その後、実際に管理運営している村内の源泉等を散策し、会場を変えて更に会員である高橋寛治さんから、県内にある小さな村の内発的発展による人口の増加という事例研究をご説明いただきました。なお、フォーラムの概略は、日田大会でポスター発表させていただきました。

同じ日に、外部と内部のそれぞれの発展事例を聞き、みんなで熱い議論（温泉も熱かった）を深夜まで繰り広げる、ここに信州自治体学会の面白さを感じます。

皆様もぜひ信州へお越しください。

【報告者・小池 啓道（信州自治体学会）】

